

(NO FENCE IN NORTH KOREA)

NO FENCE

E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」

会報 **かいほう** / ノーフェンス

NO FENCE

一人間として、人類の歴史に禍根を残さないために、山の奥に封じ込められ、いのちの尊厳を冒瀆されている人々を放置しない。

vol. **15**

2012年2月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 <http://nofence.netlive.ne.jp> 【郵便振替口座】 NO FENCE / 00180-1-707147



2011.12.17
金正日死去



北朝鮮にある
強制収容所を
一刻も早く
なくそう!

世界中の良心が声を挙げて

▶ INDEX ◀

- 「金正日死去に伴うNO FENCE 声明」 2
- 北朝鮮人権状況決議国連採択・金総書記遺体処理... 3
- 金正恩への手紙-ICNKによる- / 「国際的モニタリング受入要請」... 4
- ICNK提案の“事実調査委員会設立を求める” 「国会決議（案）」... 5
- AIとHRWの取組みとNO FENCEの責任 ... 小川晴久 6
- 強制収容所体験者の描いたイラスト 8
- 北脱出者手記 “地獄の北朝鮮政治犯収容所!” ... 李 白勇 9
- 脱北実態報告「生きて渡れ」 12
- 13年目にやっと活動の機会 渡邊孝雄 15
- 活動にあたって / ご報告とごあいさつ ... 小沢木理 16

具体的な一手一手を！
人間には万人に“隙”が備わっている

複数の駒を知恵もって
活用すべし



北朝鮮の人々の生活の安定は北朝鮮の人々にとってのみならず世界にとっても喫緊の課題である。その解決のためには北朝鮮の人々の人権改善が不可欠であり、“強制収容所”を解体することがその「鍵」であった。しかし今はその鍵の本来の所有者金正日が死去しなくなったのである。



ひとつに国連調査委員会 (UN Commission of Inquiry) の設立が急務

11月～2月
2011年～2012年

最近の活動

NO FENCE

強制収容所の解放を第一に願う

— 金正日死去に伴うNO FENCE声明 —

金正日が亡くなった。北朝鮮の人権改善、その根幹である強制収容所の廃絶を求めてきたNO FENCE(北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会)として、この機会に以下のことを訴えたい。

一、北朝鮮の民主化、人権の回復は、強制収容所の廃絶から始まる。

強制収容所は北朝鮮人民の恐怖的である。金日成・金正日親子の体制に反対したり、彼らを誹謗すると、裁判もなしに、家族ぐるみ収容し、強制労働の末、死に追いやられるからである。全国の山の中に十数か所あると見られる強制収容所がなくなれば、北朝鮮の人々は勇気を持って発言し、行動に立ち上ることができる。

二、強制収容所の廃絶から着手することは難しいことではない。

- (1) 北朝鮮は国際人権規約(自由権規約)の加入国であり、
- (2) 国連はここ数年間強制収容所を含む人権改善の総会決議を北朝鮮に対し行っており、
- (3) 世界の主要人権NGOも強制収容所を根幹とする北朝鮮の人道犯罪を阻止する国際的な連合(ICNK)を本年9月8日に結成している。

ただ、中国が上記の国連総会決議に反対し、北朝鮮の体制を支えている障害がある。しかし、金正日亡き今、この障害を克服する条件が出てきた。中国が北朝鮮を改革開放に導きたいなら、それを阻んできた強制収容所の廃絶が必要であることに気づくべきである。ナチの強制収容所に匹敵する北朝鮮の強制収容所を、金正日亡きあとも擁護するなら、中国は世界の笑いものになることを知るべきである。

三、同時に二つの危険性もある。

金正日の死は強制収容所廃絶にとって有利な事態であるが、世界の認識が遅れると、次のような危険性があることも指摘したい。

万が一有事の際に収容者(20万人以上)が証拠隠滅のために虐殺される恐れがあり(収容所体験者の証言)、また一般市民で有事の際に抹殺される対象者が「十号対象」という呼称で事前にリストアップされているとの情報もある。

金正日の死を迎えたこの機会に、この強制収容所問題についての認識を高めていただきたい。金正日が最も恐れていたことは、強制収容所の露見であった。その重しが取れたのである。

2011年12月19日

NO FENCE<北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会>

強制収容所を廃絶するための
ロードマップ

みなさんと共に
描きましょう! **語めましょう!**

<2011年>

【12月19日 NO FENCE声明】 …声明/2頁

『強制収容所の解体を第一に願う』

【12月3日 NO FENCE集会】 …報告/7～8頁

世界の三大NGOが結束して動き出した
—北朝鮮の人道犯罪阻止に向けて—

【11月25日 ICNK 院内集会】 …報告等/4～5頁

『STOP! 北朝鮮の人道犯罪』



学生さんへの広がりを目指す

昨年12月21日、東京大学のキャンパス内食堂横の展示スペースで、北朝鮮の強制収容所の絵の展示会が開催されました。展示は、その数日前NO FENCEの集会に参加された東大の土井香苗(ヒューマンライツウオッチ日本代表でもある)先生ゼミ北朝鮮班の生徒さんたちから当会に絵の貸出し要請があり実現したものです。主催した生徒さんたちは「収容所での残酷な拷問、公開処刑が多く行われていることは、学生では知っている人の方が少ないと思う」と話していました。若い方達のこのような試みをしっかり支持し、協力していきたいと思います。(世話人:木原和子)

2・6「STOP! 北朝鮮の人道犯罪」院内集会(開催予定)

「第12号チョンゴリ政治収容所」の実態を聞く!

■日時:2012年2月6日(月) 12:15~13:00 ■会場:衆議院第一議員会館 第2会議室
■主催:北朝鮮における『人道に対する罪』を止める国際NGO連合(ICNK)

ICNK活動
国会で学習会

このコーナーは、各メディア記事から抜粋して掲載しています。

The latest news

金総書記の遺体処理・維持費用負担でさらに国民に飢えを強要



遺体処理の専門家によると、保存作業は遺体から脳、眼球、内蔵などの臓器を取り出して遺体を防腐剤に漬け込み、液体を浸透させてから乾燥させていく。永久保存作業の期間は半年から1年程度とみられる。

平壤市内の錦繍山記念宮殿で、花に囲まれ安置された金正日総書記の遺体(2011.12.20日共同)



動物の剥製は記事と直接関係ありません。



●北朝鮮に取材源を持つ韓国の民営ラジオ局「開かれた北朝鮮放送」の河泰慶代表は連日のように北朝鮮住民と通話して…20日までは取材できていた。

その結果、河代表は「住民の5割は金総書記の死を大した問題ではないと受け止めている。2割はよく死んでくれたと感じ、3割は本当に悲しんでいるとの感触を得た」と話す。

●3年前に脱北しソウルに住む40歳代の男性は「テレビカメラの前で最も激しく泣いている人々の中にこそ、『よく死んでくれた』と思っている人が多いはずだ」と指摘。

(出典:朝鮮中央通信=共同/2011.12.22)

複数のメディアによると、『遺体の防腐処理だけで約100万ドル(約7800万円)がかかり、その後も腐敗や酸化を防ぐため週2回程度、ひつぎから取り出して防腐剤を塗り、2~3年に1度は保存液に1カ月間浸すなどの管理が必要。』

『その費用が年間約80万ドル、親子で年間約160万ドル(約1億2500万円)以上の維持費用がかかると推定。このため「飢えた住民にその金を使うべきだ」との批判の声も出ている』としている。

永久保存処理の作業を行ったのは全ロシア薬用芳香科学研究所。この分野では世界トップ。ソ連の初代指導者レーニンや北朝鮮の金日成主席らの処理も手がけ、世界的に知られる遺体保存の研究所のグループ。

2012年
~2月
雲は流れ、物は朽ち、やがて花は咲く
その時、その訪れは拒めない。

北朝鮮人権状況決議の国連総会第3委員会における採択

平成23年11月22日(外務省プレスリリース)

本22日(火曜日)(現地時間21日(月曜日))、ニューヨークで開催中の国連総会第3委員会において、我が国及びEUが共同提出した北朝鮮人権状況決議が、7年連続で賛成多数により採択されました。

この決議は、北朝鮮における様々な人権侵害に強い懸念を表明し、北朝鮮に対し、すべての人権と基本的自由の尊重や、拉致被害者の即時帰国の実現を含めた拉致問題の早急な解決等を強く要求しています。

北朝鮮の人権状況改善のためには、国際社会が連携して、北朝鮮に対する状況改善に向けた具体的行動の働きかけを継続することが重要です。本決議が、すべての国連加盟国からなる国連総会第3委員会で、多数の賛成票を得て採択されたことは、拉致問題の早期解決を含む北朝鮮の人権状況に対して国際社会に引き続き強い懸念が存在することを示しており、北朝鮮に対して国際社会の明確なメッセージを改めて発出することになったと考えます。

我が国としては、北朝鮮が、今次決議に示された国際社会の声を真摯に受け止め、拉致問題の早期解決を含めた人権状況の改善や、北朝鮮人権状況特別報告者の受入れを含めた国際社会との協力に向け具体的行動をとるよう引き続き働きかけていく考えです。

(参考)

1. 投票結果

賛成112票、反対16票、棄権55票で採択、共同提案国は、我が国、EU諸国、米、加、豪、NZ、韓国、ミクロネシア、トルコなど52か国(詳細は別添)。国連総会第3委員会メンバーは国連全加盟国(193か国)。

2. 本決議案は、今後12月中下旬の国連総会本会議で採決に付される予定。



2012年1月8日

朝鮮民主主義人民共和国
平壤 朝鮮人民軍最高司令官

世界15カ国以上のNGOがメンバーとなっている「北朝鮮における人道に対する罪を止める国際NGO連合」(ICNK)は、1月8日の金正恩氏の誕生日を機に、書簡を交付し、父親と異なり、人権を尊重した新しい北朝鮮を作るリーダーとなるよう求めるアクションを行いました。日本では、休日明けの1月10日(火)に、ICNK日本のメンバーたちが集まり、朝鮮総連まで出向いてこの書簡を交付するとともに、現場で記者会見を行いました。

金正恩 殿

独立した国際的非政府組織(NGO)である我々(団体リストについては本書簡末尾を参照して下さい)は、貴殿の父上の逝去の後、貴殿が朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の指導者となったことを受けて本書簡をご送付申し上げます。そして、貴殿に対し、貴殿のリーダーシップ及び北朝鮮の評判を高めるとともに、北朝鮮の人びとの利益にもなると信じ、以下、いくつかの懸念及び意見を述べさせていただきます。

この一年が、貴殿及び北朝鮮国民にとって困難な難題の多い年になるのは明らかです。一方、貴殿がいかなる指導者として歴史に名を残すのかという観点及び、北朝鮮の全国民の安寧という観点からこの歴史的な瞬間を活かすのであれば、北朝鮮を人びとの人権と自由を尊重する国にするための大いなる機会ともなりえるのです。

長年北朝鮮問題に取り組んできた団体として、我々は、北朝鮮の人びとの置かれた状態を深く懸念しております。20万人以上の男性、女性、子どもが未だに監獄や強制収容所に拘束されたままです。その多くは政治的理由で拘束されており、国際的に認められた犯罪を犯していません。過去拘束された人の家族や関係者であるというだけの理由で拘束されている人が多く、食糧や医療の不足ゆえに多数の被拘禁者が死亡に至るといふ最悪の奴隷状態を耐え忍んでいるのです。

北朝鮮政府は、市民的及び政治的権利に関する国際規約及び経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約を批准しており、よって同規約に規定される人権を遵守する義務を負うという事実にもかかわらず、2,450万人の北朝鮮国民の大多数は、その人権を侵害され続けています。

北朝鮮国民は、政府の決めた規範からの些細な逸脱でさえ、生活手段、自由、基本的人権、または生命までも恣意的に失う結果につながりかねないという絶え間ない恐怖と危険に直面しています。しかも、人びとは独立した司法に訴え出る道を与えられていません。

極めて多くの政府部局や治安関係機関は、恣意的逮捕、無実の者の投獄、失踪/拉致、強制労働、拷問、そして処刑にまでも手を染めています。表現の自由、結社の自由、集会の自由、移動の自由、宗教の自由などの基本的人権は存在しません。政府発以外の情報へのアクセスは禁じられています。

数百万人の北朝鮮国民が毎日、飢えや栄養失調、そして不適切な医療に苦しんでいます。北朝鮮政府は最低限度(decent level)の対応をする能力と手段を持ち合わせているものの、過失又は意図的な政府方針の結果、対応をとっていないのは明らかであります。

北朝鮮政府は、いまや、人道に対する罪及び国際法の重大な違反の非難にさらされるに至っており、独立かつ公平な国連調査委員会(UN Commission of Inquiry)の設立が急務であると我々は確信しております。

貴殿の祖父である金日成氏生誕百周年を祝う2012年4月15日まであとわずか数ヶ月という北朝鮮史上重大なこの時期、我々は、最高司令官たる貴殿に対し、基本方針の変更を求めるものであります。我々は貴殿に対し、こうした過ちを改め、貴殿の政権においては組織的かつ広範な人権侵害をやめるよう強く求めます。

我々は、北朝鮮の人権状況に関する国連特別報告者を招へいするとともに、国連特別報告者や赤十字国際委員会などの国際的なモニタリング組織に対し「管理所」を含む全地域の拘禁施設へのアクセスを与えるよう強く求めます。もうひとつの改革の重要な一歩として、集団処罰により「管理所」送りとなったすべての家族を、直ちに人道的理由により釈放するべきであります。この釈放は、北朝鮮国民の苦しみを取り除く重要な最初の一歩となるであります。同時に、国連及び国際社会における貴殿の評判を改善・強化するでしょう。

貴殿が、これまでの北朝鮮と異なり、人びとの人権、健康と幸福、個人の尊厳の完全な実現を目指す新たな北朝鮮を構築する機会を掴み取ることを心から願っております。そうすることで初めて、北朝鮮は、これまで求めてきた世界からの尊敬と安全を勝ち得るのであります。

お返事をお待ちしております。

敬具

- Advocates International Global Council
- Amnesty International/アムネスティ・インターナショナル
- Asia Justice and Rights
- Asian Federation Against Involuntary Disappearances
- Asian Human Rights & Humanity Association of Japan/ アジア人権人道学会
- Burma Partnership (Thailand)
- Christian Lawyers Association for Paraguay
- Christian Solidarity Worldwide
- Committee for Human Rights in North Korea (USA)
- Conectas (Brazil)
- Council for Human Rights in North Korea (Canada)
- Freedom House (USA)
- Free NK Gulag (ROK)
- Free North Korea Radio (ROK)

- Han Voice (Canada)
- HH Katakomb (ROK)
- Human Rights Watch/ ヒューマン・ライツ・ウォッチ
- Human Rights Without Frontiers (Belgium)
- Inter-American Federation of Christian Lawyers
- International Federation for Human Rights (FIDH)
- COMJAN (Investigation Commission on Missing Japanese Probably Related to North Korea)(Japan) / 特定失踪者問題調査会
- Japanese Lawyers Association for Abduction and Other Human Rights Issues in North Korea/ 北朝鮮による拉致と人権問題に取り組む法律家の会
- Jubilee Campaign (USA)
- Justice for North Korea (ROK)
- Kontras (Indonesia)
- Liberty in North Korea - LINK (USA)

- Life Funds for North Korean Refugees (Japan) / 北朝鮮難民救援基金
- Network for North Korean Democracy and Human Rights (ROK)
- NK Intellectual Solidarity (ROK)
- NO FENCE <Association for the abolition of concentration camps in North Korea>北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会 (Japan)
- North Korea Freedom Coalition
- Odhikar (Bangladesh)
- Open North Korea (ROK)
- People In Need (Czech Republic)
- PSALT NK (Prayer Service Action Love Truth for North Korea)
- The Simon Wiesenthal Center (USA)
- The Society to Help Returnees to North Korea (Japan)
- Students Alliance for Human Rights in North Korea (ROK)
- Young Defectors' Alliance for North Korean Human Rights (ROK)

北朝鮮に関する国連・事実調査委員会(UN Commission of Inquiry) 設立を求める国会決議【案】 (2011年案)

北朝鮮による拉致問題が未解決であること、北朝鮮において組織的な拷問、強制労働、公開処刑、集団処罰などが広範に行なわれ、表現の自由や集会・結社や移動の自由は否定され、食糧不足による人道問題も発生するなど、劣悪な人権状況が報告されていることに深い懸念を表明し、

北朝鮮政府が、拉致問題の早期解決を含めた人権状況の改善や北朝鮮人権状況特別報告者の受入れを含めた国際社会との協力を求める日本政府の働きかけに応じておらず、また、国連総会において6年連続で採択されている北朝鮮人権状況決議にも対応していない実態に鑑み、

また、国連の北朝鮮人権状況特別報告者であるマルズキ・ダルスマン氏がその報告書において「北朝鮮が全体として人権の保護・促進を確保する必要を強調」し、国連の前北朝鮮人権状況特別報告者であるウィティット・ムンタボーン氏がその最終報告書において、「北朝鮮における人権を促進・保護するため、国連のあらゆる組織を総動員すること、及び人権侵害に対する責任追及と処罰を具体化する過程と北朝鮮での不処罰の終焉を支持すること」を国際社会に要請したことに留意して、

本議院は、日本政府に対し、

- 1) 拉致問題解決をはじめ、政治犯収容所解体や公開処刑の停止など、北朝鮮における組織的かつ広範な人権侵害を解決するための国際社会の努力を倍増するよう更なる外交努力を行なうことを求め
- 2) 国連において、こうした人権侵害が人道に対する罪に該当するかを調査検証するとともに、こうした人権侵害を止めるために必要な行動について勧告する事実調査委員会(コミッション・オブ・インクワイアリ)が設立されるよう、努力することを求める。

※脚注 「人道に対する罪」について 国際刑事裁判所のローマ規程に規定されている集団殺害罪、人道に対する罪、戦争犯罪、侵略の罪の4つの犯罪のうち北朝鮮でおきていると考えられるのは「人道に対する罪」です。ローマ規程第7条で、人道に対する罪は「文民たる住民に対する攻撃であって広範又は組織的なものの一部として、そのような攻撃であると認識しつつ行う次の行為」とされ、殺人、絶滅させる行為、奴隷化、住民の追放又は強制移送、国際法の基本的な原則に反する拘禁その他の身体的な自由のはく奪、拷問、強姦等の重大な性的暴力、政治的・人種的理由等による迫害、強制失踪、アパルトヘイトなどが列挙されています。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/11/1119_01.html
<http://www2.ohchr.org/english/bodies/hrcouncil/docs/16session/A-HRC-16-58.pdf> para 67
<http://daccess-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/GEN/G10/107/93/PDF/G1010793.pdf?OpenElement>

この「国会決議(案)」は、下記主催者側が提案する「案」として当日会場で配布されたものである。

「STOP! 北朝鮮の人道犯罪」院内集会

～北朝鮮の人権情勢と国連事実調査団Colの提案～

『人道に対する罪』阻止のためのグローバル連合結成の報告を兼ねて

日時:2011年11月25日(金) 正午～午後1時

会場:参議院議員会館(永田町) 地下1階 B-107会議室

主催:北朝鮮における『人道に対する罪』を止める国際NGO連合(ICNK)

後援:アムネスティ議員連盟、人権問題を市民と共に考える議員連盟

— 開催の背景 —

本年9月、世界のメジャー人権NGOが大連合し、参加国内団体が協同行動開始した。Human Rights Watch、Amnesty International、FIDHをはじめとする世界15か国40余の団体関係者が東京で一堂に会し、北朝鮮における『人道に対する罪』を止める国際NGO連合ICNK(International Coalition to Stop Crimes against Humanity in North Korea)を結成しました。拉致問題をはじめ北朝鮮人権問題の解決に向け活動している日本の各団体もまた、この国際NGO連合:ICNKへの参画を公に表明し、共同行動を推進している。拉致された同胞を取り戻し、北朝鮮に囚われたままの日本人妻らの帰還を実現し、さらには強制収容所に象徴される北朝鮮当局による人道犯罪を抑止するために、私たち日本の民間は、そして政治は何をなし得るのか。皆様とともに考えていきたい。(HRW作成文引用)

NO FENCE主催 12/3集会報告

★ 集会は、若林秀樹さん(アムネスティインターナショナル日本事務局長)、土井香苗さん(ヒューマンライツウォッチ日本代表)からそれぞれの団体の取組を、宋允復(NOFENCE事務局長)からは最新の北朝鮮状況報告が行われ、後半は質疑応答へと展開していった。



12月3日“世界のNGOが結束して動き出した”集会報告 AIとHRWの取り組みと NO FENCEの責任

12月3日(土)の集会は浜松町の「人権ライブラリー」の集会室で午後挙行され、約50名の方が集まって下さったが、とてもいい集会であった。世話人4人で録音から起こした話や発言を読み返して見ると、それを限られたスペースで要約することでは、その良さを伝えられない。その全体は別冊資料でつかんでいただくこととして、ここではメインゲストのお二人のお話から大事な所を引用・紹介し、最後に私が感じたことを一言述べて報告とさせていただきます。

副代表 小川 晴久

アムネスティインターナショナル

一、アムネスティ(AI)若林秀樹さんのお話から



〈アムネスティ誕生の経緯〉

「(アムネスティは)50年前(1961年)の5月28日にロンドンでスタートしました。ピーター・ベネンソン(Peter Benenson)という一弁護士が、たまたま数ヶ月前ポルトガルのリスボン(の喫茶店)で二人の学生が“自由に乾杯!”と言った瞬間に捕まって七年の刑を受けてしまった、それを(新聞記事で)知ったベネンソンは憤りを感じ、ここが凄いなと思うんですが、ロンドンにいなながら、自分の家族でもない、友人でもない、他国の学生が捕まったことに憤りを感じて、弁護士活動では限界がある、大衆運動を起こさないといけないと考え、動き出して、いろんな新聞に掛け合っ、それを一つの新聞〈オブザーバー〉が大々的に取り上げて、“忘れられた囚人”(救出)ということでスタートしました。まさに表現の自由、思想信条の自由からスタートした運動です。」

〈政治犯収容所の閉鎖を求めハガキ運動〉

「(アムネスティ)50周年と

いう記念すべきキャンペーンの中で、“individuals at risk”という危機にある人々を中心に表現の自由という人権を侵害されて捕まった人を救おうという10人のケースを選んだのですが、その一つに、囚人の一人ではないのですが、耀徳〈ヨドック〉収容所の問題がキャンペーンの一つになりまして、日本支部も今年の春にそれを取り上げて取り組み始めたのが、この耀徳収容所の閉鎖を求める運動でありました。」

「数多くの人権侵害がある中で、・・・残念ながら現時点でこの北朝鮮の問題は中心的な課題という位置づけにはなっておりません。」「我々自身がこの問題で動かなければどこが動くんだ、ということで、我々がロンドンにある本部国際事務局を動かしてでも、この問題について一歩でも二歩でも動けるようにしていくことが、アムネスティインターナショナル(AI)日本の役割ではないかと思っていますので、過去(十年)はどうあれ、この耀徳の問題からスタートして北朝鮮の人権侵害の問題について取り組んで行きたいと私は事務局長の立場で思っている所です。」

ヒューマン・ライツ・ウォッチ

二、HRW土井香苗さんのお話から



〈HRW設立の経緯〉

「ヒューマンライツウォッチHRWの設立経緯ですが、1978年、東西冷戦中、米ソ協約のヘルシンキ協約に『人権を保障する』という文言が入れられたことを契機に、それをウォッチ(監視)すると言うことで、ヘルシンキウォッチが作られ、アメリカ側でNGOが立ち上がりました。その後アメリカウォッチ、アジアウォッチ、アフリカウォッチ等ができて、1980年代半ばには、様々なウォッチグループが並列するような形になりました。」

〈日本オフィス開設〉

「三年前日本のオフィス開設となりました。・・・我々は世界90カ国位の人権状況をモニターして改善に取り組んできておりますが、その中でも人権状況の最も悪い国の一つが間違いなく北朝鮮であり、その状況は悲惨なものがありますので、小さい事務所ながら相当な部分を現在北朝鮮問題にも注いでおります。」

〈人道に対する罪という国際犯罪とCOI〉

「今、実際に国際的刑事処罰が可能な犯罪は、人道に対する罪、戦争犯罪、ジェノサイド(大量虐殺)の三つがありますが、世界で最も責任の重い刑事犯罪として、ICNKは国際的刑事処罰の対象として北朝鮮を人道の罪に問う活動を始めました。ICNK参加NGOの合意事項は、各NGO独自の活動はそれぞれ今まで通り行うが、UN Commission of Inquiry(国連調査委員会 以下COIと略記)設立活動においては、一致団結して行うということです。

この委員会は、北朝鮮において人道に対する罪という国際犯罪が行われているかを調査する委員会です。この委員会設立により、北朝鮮の人権問題に対し、非常に高いレベルでの調査、捜査が行われる初めての取り組みとなり、国際的な注目も非常に大きくなると思います。今まで10個以上設立されておりますが、最近では、リビア、シリア、コートジボアールについて調査委員会は出来ました。」

〈北朝鮮人権COI設立の方法〉

「(設立には)人権理事会、安全保障理事会、経済社会理事会又は総会のどれかでの決議が必要です。皆さんご存知の通り総会で毎年一回北朝鮮の人権決議が行われます。今年は七年目なのですが、その決議分に“Commission of Inquiryを設立します”という一文が入れば設立となります。この一文を入れるということが設立の現実的な方法であります。しかし現在の問題点は決議の提案者、日本とEUが委員会設立を決議案に入れておりません。そのため我々のようなNGOがCOIが必要であるという声を上げ、COIの設立を国会の決議にしよう国会議員にお願いをしております。来年(2012年)11月の八回目の決議に間に合

わせるよう来年通常国会が終る頃までに、6月か7月にそのような国会決議が通れば、8月か9月頃に日本政府とEUでドラフト〈決議原案〉を〈作り〉始め、10月11月に世界各国からドラフト案の了解を取るとというのが外交の流れとなります。国会決議が得られても、必ずしも国連決議に結びつく保証はないのですが、非常に重要なステップになると思います。EUでは一年前ですが、COIに関する決議は出ましたので、日本での決議が次のステップになります。なんとか早いうちに、数年のうちにCOIというICNK設立の目的を果したいと思っておりますので、皆さまのご協力をお願いします。」

三、 質疑討論から ——NO FENCEの 責任大

質疑討論に入り、コーディネーターの砂川さんから「北朝鮮の人道犯罪を止める」ロードマップをどのように描いておられるかと問われて、AIの若林さんは当面六年間の計画を作り、二年毎に達成度と計画をチェックしていきたいと答弁。HRWの土井さんからは、北朝鮮の政治犯収容所の問題は世界のトップレベルのリーダーが話し合うにふさわしい重要な問題なのに、まだそうっていない、それを世界レベルのリーダーが真に解決すべき問題と認識するまで持つていくにはまだまだステップがある、達成度は100のうち20位だ、やるべきことでやっていないことは沢山ある、「あとどれ位時間がかかるかということ、我々がどれだけ出来るかということではないかと思う」という趣旨の答弁があった。

AIもHRWも北朝鮮の人権問題だけに取り組んでいる団体ではない。我々NO FENCEは北朝鮮の強制収容所の廃絶を目指しているNGOである。

この廃絶の課題が今どこまで達成されているか、その達成には何が必要かを分析することは、それができているか否かは別として、我々NO FENCEがやらねばならない。韓国の政治犯収容所解体運動本部と連携しつつ、その自覚をもっと高め、活動しなければならぬ。国会決議案一つにしても政治犯収容所の解体がなぜ必要なのかを国会議員にわかってもらう資料(体験者が描いたイラスト集など)を早急に作成しなければならない。

AI, HRW, ICNKに感謝しつつ、NO FENCEのやるべきことの大きさを再認識させられた12月3日集会であった。金正日死後の今、特にそれを思う。

● information

アムネスティーの 強制収容所の閉鎖を求める ハガキ活動



詳細やダウンロード、オンライン署名などはアムネスティー日本のホームページから。

みなさまもぜひ
ご協力ください!



アムネスティー・インターナショナル日本
http://www.amnesty.or.jp/
http://www.amnesty.or.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=4158



Please imagine !



<収容所体験者が描いたイラスト>

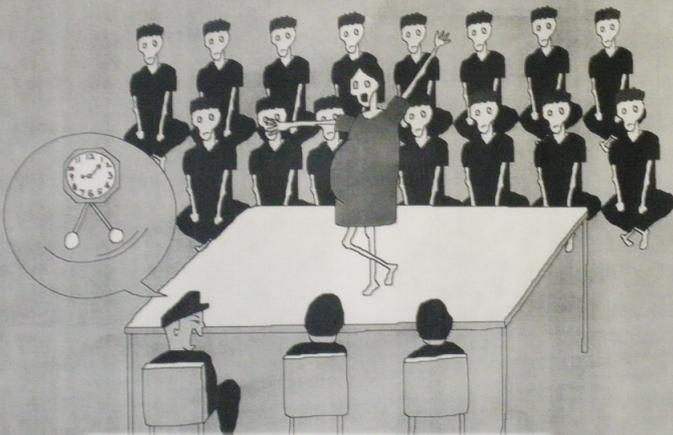
カラー写真は、強制収容所とは無関係です。



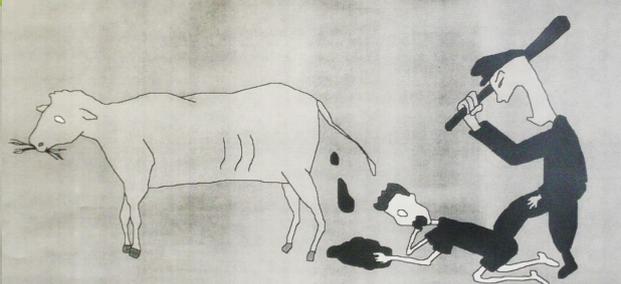
北朝鮮の
強制収容所で
日常的に行われ
ている虐待



丸太を運ぶ作業では、障害者が丸太に引きずられている



ひとりひとり収容者所の妊婦が取り調べを受けている



囚人が牛の糞の中からトウモロコシの粒を見つけて食べたのを
見つかって看守に殴打されている



(イラスト撮影:木原和子)



”北脱出者手記”を韓和訳したものです。(出典: 自由北朝鮮放送)

地獄の北朝鮮政治犯収容所!

リバックヨウ
李 白勇 (仮名)



●脱北決心と挫折

私が独裁者金正目を護衛していた時は外部と接触できなかったため、よく食べ良い暮らしをしているというテレビ、ラジオ、新聞雑誌を鵜呑みにし、除隊してみると私が聞いたこととは社会生活は180度違っていたために、韓国の放送に耳を傾けるようになった。

韓国KBS社会教育放送は、北朝鮮の汽車には窓もなく旅行するにも旅行証を検査するなど北朝鮮の現実をそのまま話していた。韓国の放送の真実味が私を韓国に引き込んだ。そして全日成、全正日父子が人民大衆に豚肉にコメの飯を食べ瓦の家で暮らせるようにする、社会主義の地上楽園に往めるようにすると語っているのは、虚偽・欺隔だと知るに至った。

1994年10月1日中国国慶節を契機に私は中国和龍でテコンドーで金を儲け、延吉(ヨンギル)自治州に入り朝鮮族に私の思いを語った。1994年11月26日韓国大使館員と称する金ヨンホに会った。後に分かったのは、彼は中国駐在北朝鮮大使館国家安全代表であ

った。彼は中国朝鮮族(特務)から話を聞き、延吉に飛行機で来たのだ。彼は私を誘惑するため、延辺(ヨンビョン)大学数学講座長の家で、韓国に行くには記者向けのメッセージを書けと言った。私は全日成、全正目を王朝独裁と非難し、韓国の生活水準は北朝鮮より高いことや、全正目がどの通路をどの時間に通るか、事務室と別荘の位置と執務室の構造、地下道、行事日程、随行員の特徴、全正目の散歩時間と随行員の放蕩生活、行事の際の軍務戦闘技術、機材について書いた。

これに満足した北朝鮮国家安全代表は私を連れて図們—北京行列単に乗り、1994年11月29日北京駅前の近辺食堂で一晩寝て、天安門広場そばにある朝鮮族旅館で3日間泊りながら写真と韓国カレンダーと韓国のハナ口というタバコを与え私を安心させた。そして天安門広場のそばにある写真館で私のパスポート用だといって写真を撮り、12月3日夕方6時30分大使館の車に乗せて韓国大使館に行くというが、人ってみると全日成金正日父子の写真があり北朝鮮大使館と気付いた。しかし時はすでに遅かった。

そして1994年12月4日北京—平壤行き飛行機で夕方に北朝鮮服安飛行場に強制連行された。私は全身をギブスで固められたまま麻酔とモルヒネ注射を打たれて、平壤市蓮池洞(ヨンジドン)所在の国宗安全保衛部予審局(第3局)1号監房の1番収監者となった。この時、私を担当した予審員は全スンチョル、2階の216号室で調査を受けた。

●予審期間の苦痛



国家保衛部(3局)予審局長は録音機で私の話を聞きながら「他にもない君がどうしてこんな誹謗と権威毀損、そのうえ敵が狙う護衛事業の秘密まで漏洩したのか? 將軍様の身辺安全にどれほどの危険をもたらしたか。君は民族の敵であり処断されるべきだ」といいながら「銃殺しろ!」と怒鳴るのであった。

その日の夕方から私は独房で拷問された。保衛員が足と銃で殴打したせいで足が腫れ、鼓膜は破れ、歯は折れた。彼らは明け方4時から夕方10時まで眠らせず、寝る時間には警護員が入ってきて頭に水

をぶっかけ、体を凍えさせた。毎日のように手と足を交互に鎖をはめドアの隙間から差し出させ、クヌギの棒で足の甲と脚の骨を叩いては苦痛を与えた、一日も欠かさずに。また、鎖で縛って空中にぶら下げ、鉄串とクヌギの棒で叩いた。誰から任務を受けてそんなことをしたのかと尋問するのであった。私の話は録音された。ある時は便器の穴に頭を強く打ち付け水を注いで「頭をきれいに洗ってやるぞ」と言いながら、何時間も虐待、殴打した。12月から5月までに体験した苦痛は表現できない。飯は一日3食、一食当たりとうもろこし米33グラムと塩漬けの白菜を煮た汁をスプーンなしで食べた。

拘留湯に入る時94キロだった私の体重は出てくる時は54キロになっていた。

予審の際は6~7人が入ってきて私を横にし、ヤカンで水を注ぎこみ腹を踏んで水を吐かせた。時には鼻の穴にヤカンで水を注いだ。私はひどい熱病に罹った。死んでたまるかという精神力で苦痛を耐え、空腹も忘れた。禁食処罰だといって一日2食66グラムしか与えない侍もあった。

私は刑法44条、46条、47条により死刑宣告を受けた。4月のある日、予審官金スン Chol が私を呼び出した。お前の家にある録音機でKBC放送を聞いたことを現地確定(現場検証)すると、平壤から茂山まで下り私の妻を弄んでから平壤に戻り、「家に録音機はない」と両親と妻が捺印した文書を私に見せ、私が書いた文書の中で「録音機でKBS放送を聞いた」と書いた部分を削除するのであった。録音機は金スン Chol が横取りした。「誰にも絶対に言うな」という。

金正日の運転手をしている弟を生かすため、私を国水保衛部耀徳(ヨドク)管理所(15号)大粛里というところに送るとのことだった。

●第15号(耀徳(ヨドク)管理所生活



ヨンゴル

耀徳に行く時は平壤市軟骨洞からソ連製車シングルに乗せられていっ

た。管理所入口から私が暮らす大粛呈まで行くのに2時間半程かかる。新入は15日間訓練を受け、その後には斑、小隊に配置される。

私たちの区域には千人ほどいた。1班、2班、3班、女性班、家族班、工務班になっている。班別で四方に高さ4メートルの電気鉄条網が張り巡らされている。家は板張りのアパート屋だ。夜ごと警備隊のチンピラが武器を携帯して警戒所に立つ。朝5時までに食事をして作業場に行く。一班は170入程で、一小隊56入程、三一小隊になっている。新入者は1ヶ月に5~10入程度だが、着実に入ってきた。

作業は朝5時から夕方日が暮れるまで続く。昼は飯を本人が持ってくる。作業内容は毎日違う。私たちの中隊、私たちの小隊は山に登ってひとり一日平均1.5立方メートルの本を斧で伐採するのだ。木は社会に売る。時には保衛指導員の家に持っていく。他の中隊はとうもろこし農作業をした。一小隊当たりの畑は20町歩。一日背負子(しよいこ)120杯分の水を山から畑まで1000m足で運んでこそ宿舎に戻れる。

宿舎に戻ってからはパンツ一枚の裸のまま担当保衛指導員達に朝鮮トネリコ(木材として使われ、弾力性に優れ頑丈な木の名称)でその木が10本が折れるほど地に伏せたまま叩かれる。

男はまだまだ。女の場合は胸をはだけられパンツ一枚身に着けた状態で手の甲を同じく10本の木材が折れるほど叩かれる。さらに自分が用を足した大便を自分の手でトウモロコシ一株一株に土を取り除いて詰めなければならない。

一日の食糧は一人当たりとうもろこし150gの時もあれば100gの時もある。それは一日の課題遂行とその年の収穫によって違う。汁は塩汁のみで、白菜が大根の菜が浮いている。休日は1月1日、2月16日、4月15日しかない。区域の中にはスローガンの看板が多い。

『階級的仇敵には一步の譲歩も妥協もあってはならない!』

『反党、反革命分子には警戒し監視しよう!』

『農作業は生命だ、しっかりやる

う!』『逃走分子は現場銃殺、または絞首刑だ』

囚人は保衛員や警備隊軍人、社会の人がくれれば頭を地面に当ててひざまずかなければならない。遠くからでも彼らを見ると地面に当てた頭と腰を銃床や足、石でむやみに殴り、時には脳髄が漏れて死ぬことも頻繁にある。ポケットに塩を入れていたり、火打ち石を待ち機関銃歩けば逃走企図分子さとれて銃殺、絞首刑、生き埋めにされる。

ハン・スン Chol の実例を挙げる。彼は咸鏡北道(ハムギョンプクド)会寧市(フェリョンシ)烏山洞(オサンドン)に住み、韓国に行こうとしたが会寧で捕まり送られてきた。彼が収容所生活4年目にポケットから塩が出てきたとして区域の端から端までソ連製車ウワズの牽引フックに針金で足首を結び、囚人を道の両側に立てて4kmを警戒所の前まで引きずった。その結果腰の皮と頭の皮がみなむけて死んだが、死体を絞首台に縛り、囚人に血に触れさせた。逃走を企んだらこうやって殺すぞと脅した。この時、警備隊1個中隊ほどが囚人を包囲して機関銃と自動小銃を構えて監視し、不穏な兆しがあれば銃で殴る。この日平安北道から来た安城(アンソン)老人(60歳)が死んだ。

日本の時代より金日成、金正日はもっとあくどくファッショ的だと話したとして入ってきた人だ。その老人が「たった塩一握りのためにこんなにもじめに引きずって殺すのか。」「その上死んだ人を絞首台に結んでおいて囚人に死んだ人の血を触るようにさせるか。」と飛び出して訴えた。残忍な光景を見て精神が変になり大声を張り上げたのだ。彼はその場で機関銃で射殺された。こうしたことは1ヶ月に6人ないし10人程度起きる。また、生きた人間を生きうめした場合もある。

反政府陰謀と韓国への脱出を企てたとして96年茂山から来たキム・スン Chol (28歳)は、ある日の夜保衛指導員が外に出て来い

というので外に出るやいなや頭にかゴを被せられた。外で警備隊が見守る中、5人の囚人は穴を掘るよう言われ、また明かりを灯すよう指示された。出て来いと言うので皆が外に出てみたところ、穴の前に彼が立たされていた。反革命分子はこうにして死ぬのだと金槌で頭のでっぺんを殴りつけ意識を失わせた後土埋めにされた。その過程で囚人のうちの一人がきちんと穴を掘らないという理由で額に銃を撃たれその場で同じく土埋めにされたのだった。

人体実験の犠牲となった二人について話す。鄭ヒョンス(26歳)は国軍捕虜の息子だが、平安北道訴義州市(シンウィジュシ)ラグオン機械工場労働者で、船で韓国に逃げようとして捕えられたが、人体実験で死んだ。黄海北道(ファンヘブクド)青丹郡(チョンダングン)軍党責任秘書の息子、率チョングン(36才)はドイツで韓国スパイに包摂されスパイをしたというが、体が頑丈だとして人体実験室に送られた。試験場所は南浦市(ナムボシ)にあって朝鮮戦争時に国軍捕虜を人体実験で使い始め、現在まで運営されているという。

この秘密はそこで暮らしていた日本人妻、三菱フミコが入ってきて部分的に暴露された。この秘密漏洩によってフミコは96年8月拘留湯に引っ張られて行きまた戻ってきた。その後警備隊員たちが車の牽引フックに手を針金で結んで引きずり、彼女は死んだという。

帰国者ハン・シンオクも無念に死んだ。彼女の両親は現在日本にいますという。帰国して黄海北道沙里院市で暮らしたが、金正日を誹謗して捕った。朝鮮がない地球は回

らないという金正目の言葉を、「金正日がどう地球の回転を止めるのか」などと評した。保衛指導員が倉庫で手錠をはめ殴ったが、逆らったために5日間飯と水を与えず、結局飢え死にした。

担当保衛指導員が階級的な敵だとする収監女性を性的奴隷にする場合もある。李チャンオクは在中同胞出身で平壤市芸指図の指揮者であった。中国と北朝鮮の差を口にし、金正日が悪いと語ったがために管理所に連れられてきたという。彼女の父は吉林省毓文(ユク・ムン)中学校校長だという。保衛員がある日女性たちを外に集め、「この犬畜生、ズボンを脱げ」といって家の門を閉めて彼女を犯して性欲を満たした後、串で子宮を刺し本で下半身を叩いた。彼女は一週間後に死んだ。

耀徳管理所には元高官も閉じ込められていた。瀋陽駐在北朝鮮総領事を歴任した金ジョンナムは1997年管理所に入ってきたが、金正目の政策は世にも稀な閉鎖政策だと非難したからだという。中央党3号庁會統一戦線部責任指導員だったある老人は張成沢の右腕だったというが、保復員が言うとおりにちゃんと勤かず、頭を地面にこすりつけてひざまずかなかつたために、パンツ一丁で地べたを100mほど這うよう愈じられた。これもちゃんとやらないからと石で腰を叩かれ、寝たきりにされてしまった。

● 飢えたはらわたを抱いて死んでいく政治犯

耀徳管理所政治犯は一日平均120g(一食40g)のとうもろこし粥を食べて一日15~16時間労働制

に苦しむ。収容所当局は、労働とひもじさの中で、金正目の配慮がどれだけ大きいかを各自考えると強要する。管理所とはいえども人間が暮らす所なのだから何とかなるだろうと考えたが、その身体的・精神的苦痛はとうてい表現できないほどであった。待機所に15日間いた後、作業班に配置されると服は死んだ人の服を着て、宿舎はとうもろこし保管用倉庫を使った。豚舎よりも劣る紙切れのような家で、雨は漏り、吹雪がそのまま吹き込んできた。

囚人はあまりにも腹がすいてオオバコ、サルナシ、桔梗、蛇、カエル、ネズミなど食べられるものは片っ端から食べる。蛇の皮までそのまま食べ、ネズミの毛とはらわたまで食べてしまう姿はこれ以上描写できない。管理所保所員用の鶏やガチョウ、鴨にはとうもろこしがまともにも供給される。囚人は牛の糞にまじるとうもろこしの粒を拾って食べては「力が出る」と喜ぶ。彼らは栄養失調で徐々に死んでいく。頭が小さくなり背が縮んで奇形化する。しばらくすると顔と全身がむくみ、液が漏れ始める。死ぬ直前になるとは空を見上げて「天よ、私を助けてくれ」と声を上げる。

死ぬと残りの囚人が死体をどこにでも埋めるが、汗を垂らして山に死体を運び、踏み間違えて死体とともに転がり落ち、死ぬ者も出てくる。

この文を読むすべの方々に訴える。北朝鮮の人権改善のために闘ってほしい。脱北者が中国という異郷で追われながら生きていることに思いを致してほしい。

(この手記はNOFENCEで資料として韓和訳したものです。完全に正確を期すものではありません。)



KBS 1TV「取材ファイル4321」(2011年11月13日放映)から

全文を載せたいために、止むなく小さな文字にせざるを得なかったことお詫びいたします。

「生きて渡れ」

脱北実態の報告

この報告は、韓国のメディアKBS 1TV「取材ファイル 4321」が緊迫した脱北現場と中国をさまよう脱北難民たちの実態を北朝鮮と中国の国境地帯で取材し、2011年11月13日に放映したものの、以下は、その映像から証言者やナレーターのことをNOFENCEで和訳したものです。【この翻訳は資料用に作成したもので正確性を保証しません。】

◆目撃者 「何かズドンと音がしたんです。それから私たちの前に人々が走って行って…その川の方を見下ろしてみたら倒れている人が一人いたんです。倒れてるのにぶるぶると這って…その時までには動いてたんですよ。」

★下記の ~~~~の下は、映像の途中で流されるレポーターの会話です。



~~~~~  
「国境を越えたら撃つ」

今年から変わった北朝鮮の態度です。脱北して摘発されたら現場で射殺されるのです。

「北朝鮮側です。北朝鮮警備所は、あちらの突き出てる場所の隣です。」

銃殺危機の中で、今も川を渡る脱北難民たち。この人たちは、果して生きて脱出できるのか。

■脱北難民 「私たちはちょっと間違えば死ぬんですよ。とにかく私たちは生きて出て来れないんです。出てくる時に手榴弾をつけて来ました。捕まっちゃったら、自爆するしかない。」

~~~~~  
川を渡るのに成功しても他国のあっちこっちで売られている脱北女性たち。

■脱北女性 「ここに来てても体を売って、朝鮮の女達が…売ってまた売って、必死に逃げて、また他の所でまた売って… こうすれば金儲けできるんじゃない。」

~~~~~  
中国をさすらう脱北難民は約30万人と推算されています。

■脱北女性 「中国に来て生活すると、国がない民族の悲しみを感じるようになります。だから韓国も私の国です。だから私は(韓国に)行きたいです。」

~~~~~  
北朝鮮と中国、そして大韓民国、この人たちにとって祖国はどこだろうか。果してこの人たちに祖国はあるのか。
閉鎖された3代世襲の独裁社会、北朝鮮。そこでは、飢えた住民たちが(国境を越えるため)川を渡ろうとした現場で銃に撃たれ命を失ったりします。緊迫した脱北現場と中国をさまよう脱北難民たちの実態を「取材ファイル4321」が北朝鮮と中国の国境地帯で取材しました。

~~~~~

北朝鮮と中国の国境地帯。  
国境越えの北朝鮮領土の山には焚き物で使う木さえ見えず、遠く見える山岸に北朝鮮軍警備警戒所がはつきりと見えます。近隣の野原には北朝鮮住民たちが行き来し、その横には地面を掘って脱北を監視する警備警戒所もあります。

豆満江越しの市内全景が一目で見える咸境北道(ハムギョンプクト)茂山郡。  
家ごとに白い煙突がそびえ立っています。北朝鮮の最大鉄鉱石の山地であるにもかかわらず、燃料不足で、安くても質の悪い褐炭などを燃やして出てくる煙を抜き取るためのものであるようです。

村の周辺には、浚渫(しゅんせつ)の作業をしていた人びとが仕事を止めたまま集まっており、ある女性が川で何かを洗っています。

ここは水深が浅くて幅も数十メートルに過ぎないということで、主な脱北経路と知られています。このため、中国軍と公安の警備が厳しく、一切の撮影も禁止された状況。

川を渡っている男性 2人が取材チームのカメラに捕らえられました。しかし、堤防の方からこの二人を追って行く誰かとも一緒にカメラに捕捉されます。

鴨緑江越しの北朝鮮両江道恵山が見える中国長白県一帯。  
先月25日午後4時頃、取材チームがここで携帯電話を利用して撮影しました。

鴨緑江の水辺に倒れている一人の男性を、他の二人の男性が調べ、となりで黒い服を着た男性三人が慌ただしく周りを見回します。

しばらくして他の黒い服を着た二人が駆けつけてきますが、応急措置どころかただ見守っているだけです。倒れていた男性は現場で死にました。

◆目撃者「北朝鮮の住民で、真昼に密輸なのか何なのか内幕は全然分からないけど…中国に渡ったから鉄砲で撃ったんでしょね。」

~~~~~

40代に見えるこの男性は、北朝鮮で鴨緑江を越え中国に来たのではないかと推定されます。川に向こう側の北朝鮮警備兵たちと推定されます。

脱北者の銃殺される光景が実際に確認されたのは今回が初めてである。しかし、現地の同胞と脱北者たちは、何ヶ月前から銃殺のうわさが出回っていると言います。

●インタビュー 「今回が初めてではないということですか?」

■脱北者「何人かが越えて来ている途中一人が射殺されたが、それが女だと言ったら、中国朝鮮族たちもその時は悪口をたくさん叩いてたんですよ。『○○○ら、ご飯も食べさせられないくせに人はよく殺すんだ』と」

~~~~~  
真昼間にも国境を越えるだけで銃殺を躊躇しない北朝鮮。

金正恩後継体制以後、脱北者に対する対応がどの程度強硬になったのか見当がつきます。北朝鮮と国境を突き合わせている東北3省朝鮮族居住地域には、脱北した住民たちが逮捕され、強制北送される場合も非常に多くあります。

国境から遠くない中国の一都心の裏通り。粗末な隠れ処に北朝鮮脱北難民5人が隠れています。

●インタビュー 「(北から)来られてからどの位経ちました?」

■脱北者「3日です。私たちは7月に来ました。」

~~~~~  
銃殺するという覚悟で手榴弾を持ってくる脱北者もいます。

■北朝鮮脱北難民「私たちはただ一つ間違えれば死ぬんですよ。私たちはとにかく生きて帰ることはない…絶対に帰りません。最初来るときは手



榴弾つけて来ました。つかまる時は、自爆だと・・・」

娘と一緒に脱出して一人だけつかまってしまった50代女性。

■北朝鮮脱北難民 「私は誰かご飯くれる人もいなくて、数ヶ月間つかまったまま、足が凍傷にかかって足指がすべて凍って真っ黒です。この足指の爪…すべて抜けて」

飢えと寒さに耐える事ができず、命をかけてまた豆満江を渡りました。

■脱北難民 「故郷を捨てていくのに、生きようとしているのか死のうとしてののか…」

中国の他の隠れ処。一家族3人など脱北難民16人が隠れています。

つかまれば死ぬかもしれないという恐怖感に脱北女性2人が取材チームに抱きついて泣きまます。

こちらで会ったある女性は、ご主人と子供と一緒に脱出したが、一人だけ中国公安につかまってしまい、持っていたお金を渡して、釈放されたといいます。

■脱北女性 「現金が3千元しかなくてどうしたらいいかと言ったら、それでいいと言われて、受け取ってもらって…付いて行きなさいと。」

中国の他の都市で会った40代脱北男性。一回つかまって強制送還されたが、命かけてまた国境を越えました。去る3月、家族4人が一緒に脱出して息子と自分がかまって、家族はばらばらになりました。

<録音> ■脱北難民 「嫁と子供達二人で行こうとして、嫁とうちの未婚が先に行って2日過ぎ、私が息子を連れて渡り中国人と車乗って1時間ほどのところにある展望台…。そこ。その展望台でつかまって2ヶ月閉じこめられていたから…」

一緒に北送された16歳息子はまだ生死さえ分らないままです。

■脱北難民 「(長男は)私より先に釈放されたと言われたんですが、私と別れてしまったんです。息子はお母さんを捜しにいくと言ったらいいんですが、どうなったのか分からないです」

長い間飢えたように、ものすごくやつれている男性は指を二つも切られた状態。

●インタビュー 「手をちょっと見せてください。いつこのようになりましたか?」

■脱北難民 「83年。仕事でけがをしました。」

いわゆる苦難の行軍が盛んでいた1997年には、お母さんが飢えに負けて死ぬのを見守らなければならなかったと言います。

■脱北難民 「ご飯をお互いに譲るから…私は食べてなかったのも知らなくて、お母さん食べたんだろうと思っていたんです。最期に、お母さんの体を見たら腹の皮が背の皮に付いたという諺もありますが、本当に腹の皮を触ってみたら背の皮がつかめたんです。」

今も食糧配給量は守られていない。労働者の月給では米を買いにくいです。

●インタビュー 「月給はいくらですか?北朝鮮貨幣で?」

■脱北難民 「千5百ウォン。」

●インタビュー 「米1キログラムはいくらですか?」

■脱北難民 「2千ウォンくらいだったです。」

●インタビュー 「それでは月給で米 1キログラムも買えないんですね?」

■脱北難民 「はい。個人一人では買う事ができませんね。」

~~~~~

中東の民主化やカダフィの死亡情報は、聞いたこともないと言います。

●インタビュー 「全然知らなかったんですか?人々みんな?」

■脱北難民 「はい。知ってる人もいるかもしれませんが、私たちは朝出ると夕方に帰って来るので、報道みたいなのは聞けないんです。」

~~~~~

中国のもう一つの隠れ処で会った 20代女性。深刻な栄養失調状態で強制労役中、胸骨にけがをし、肺結核にまでかかっています。

取材チームは本人の同意を得て胸の傷をみて見ました。

●インタビュー 「骨が飛び出していますね。どうしたんですか?」

■脱北女性 「こんなふうにされました。」

●インタビュー 「ヒジで殴られたんですか?まともに治療を受けた事はありますか?」

■脱北女性 「ないです。」

~~~~~

この女性は脱北の前には北朝鮮の発電所や突撃隊で働いて草までかじったことがあると言います。

■脱北女性 「私も何の草なのかよく知りませんが、その草を食べました。(そこで死んでいく人も)多いです。飢えて死んだり、金がなくて死んだり、凍えて死んだり…」

~~~~~

耐えられなくなり脱北したが、人身売買に引っかかって33歳の漢族男性に、3万5千元(約6百万ウォン)で売られてきました。治療が至急必要な状況だが、いつつかまるかわからないので抗生剤で堪えつづけています。

<中略>

国家が無力だったり危機の際に、一番苦しむのは女性と子供。特に脱北女性たちは人身売買で売られたり、性的虐待にあう場合も多いです。

2年前脱北したこの50代女性は農村、食堂、世話役で四回も売られました。

取り締まりを避けて隠れる所が必要で、その上、北にいる娘にお金を送るため、自ら自分を売ったと言います。韓国へ行けば北にいる娘に永遠に会えないと考えると悲しみがこみ上げてきます。

■脱北女性 「私がここに来て苦労しながらお金を送っていても娘が胸をいためる…(泣く)…お金を送ってくれる女を通じて私がお爺さんに無視されてる話を(娘が)聞いたみたいです。」

~~~~~

このように北朝鮮に、あるいは中国に子供を残しておいて逃げる女性たちは計り知れない位に多いです。

■脱北女性 「夜明け4時に起きて夕方 7時まで木を植えたりします。一日中、洗濯物をしたりするのに、その家で秋にお金をくれないと言ったんです。」

~~~~~

お金で売られてきたため、人間的な待遇を受けないことがほとんどです。

■脱北女性 「私は自分が売られてきたのも知りませんでした。その主人という人がいつも私に“(お前は)売られてきたんだ”と、“そのお金を全部返すまでお前は(ここに)住まなければならない”と・・・」

~~~~~

また、村の住民が通報でもしないかと恐れながら暮らし、中国公安の取り締まりの奇襲に追い回される場合も多いです。

■脱北女性 「正門から公安4人が入ってきたんです。仕方なくその2メートルにもなる窓から飛びおりて、妊娠中だったので…冷たい水がここまで入っているところにそのまま入って1時間も隠れていたんです。」

~~~~~

性的虐待を受けて国籍のないまま中国をさす

らう女性たちも多いです。

23歳のこの脱北女性は4年前中国に売られてきて娘を生んで逃げてきました。

●インタビュー 「何歳の時、産みました?」

■脱北女性 「19歳の頃。」

●インタビュー 「売られた所はどんな所だったんですか?」

■脱北女性 「年上だったです。43歳。」

~~~~~

<中略>

韓国男性たちを相手に映像チャットに強制的に関わらせられて搾取される脱北女性もいます。

■脱北女性 「(私を)連れてくるのにお金がたくさん要ったと、中国のお金で1万円だったと、1万円儲けたら月給与えと、そんなふうに話してたんです。夜明け5時から8時まで2、3時間寝ながら変な行動をやらせるんです。」

~~~~~

生きるために川を渡ってきた脱北難民たち。やっと生きて川を渡っても、人々は人身売買と飢え、そして強制送還を恐れながら日々を過ぎなければなりません。この人びとが北に送還されてから経験する苦痛はどんなものなのか。

北朝鮮の管理所、いわゆる政治犯収容所は現在6ヶ所。

政治犯とその孫まで一家族3代が裁判なしに収監され、特に強制送還された脱北住民を残忍に処罰する所でもあります。

●インタビュー 「北送されれば、政治犯収容所に入る人もいますか?」

■脱北後、強制北送された男性 「はい。」

●インタビュー 「どんな人々がそっちの方に入るんですか?」

■男性 「国家に罪を犯して出てつかまった人々。出ても発言が下手でつかまった人々。」

●インタビュー 「生きて出にくいですよね?」

■男性 「はい。出る事ができませんね。死んでもそこで死ぬしかないから。」

~~~~~

人工衛星を通じて見た咸境北道にある15号耀徳収容所。

耀徳郡内の5つの里にかけて東西南北に標高約1千メートルの山に囲まれています。

収容所内のある村には、収容所を管轄する国家安全保衛部の建物と拘留場、警備隊の本部などがあり、他の区域では収監者たちの村と公開処刑場、金日成・金正日革命思想研究所の建物も確認されます。

一番最近公開された2008年、冬の耀徳収容所を2003年のものと比べてみました。

表示された所は保衛部員の私宅で、5年の間に数十戸の建物が増え、鉱山の周りに新しい建物が発見されます。

その他の収監者たちの村も、宿所や作業場がより広くなった、統合、新築され、収監者の数が増え続けていることがわかります。

平安南道、大同江の流域の价川と北倉収容所。先に北倉の本部区域です。

収監者の宿所周辺に大規模の農場があり、強制労働が行なわれていることがわかります。

こちらは价川収容所の本部。宿所の上の方の山岳地帯に炭鉱の入口が確認され、こちらの収監者たちも炭鉱で強制労働をしているようです。

北倉収容所も2003年のものと2008年とを比べて見ました。

収監者の処罰場所のほうには5年前になかった警備隊員の私宅と作業場が増え、収監者の数も

増えていることが推測できます。

北倉収容所出身の脱北女性が描いた地図。

5メートルぐらいのこの地図には、直接経験した惨状がそのまま描かれています。

■金恵淑(キム・ヘスク、北倉収容所出身脱北者)「私が13歳の頃、75年2月に入って28年間暮しました。ところで、28年も暮しながら入ってきた理由も分からずにいました。」

この女性が描いた収容所絵と証言をもとに当時状況をグラフィックに再現してみました。

「入ってきた理由が知りたかったんですよ。でも、そうすると、容赦なく銃殺するという規定があるんです。10か条の条項が。だから聞くこともできずに、入ってきた理由も知らずに、炭鉱で働かなければならないんです。2トンの炭車を……一人で押して動かすんですよ。早くやれと叫んでますから。……第一人がその炭鉱で死にました。事故で。」

自分も炭車で指を怪我して今も塵肺症を病んでいる状況。

「時には夜明け2時、3時になって帰ってきて……だから男たちは40にもなっていないのに結婚もできずに塵肺症で死ぬ人が多いです。私は50歳ですが、長く生きてるほうなんです。仕事しに行く途中で飢えて道端で死んだ人が多いです。死骸が……最初は死体を見るのも怖かったんですが、もう多すぎるからあってもひょいと飛び越えていくんですよ。」

ひもじさや強制労働より我慢ならなかったのは、人間的侮辱だったと言います。

「保衛部の人、こんなふうな人を捕まて連れ行こうと、何人も群れて……私も袖を引っ張られてたんです。」

「それで連れて行って何をすつもりなんですか?」

「強姦するんですよ。」

国軍捕虜の息子であるこの男性は、耀徳収容所に収監後、釈放され、その後脱北しました。

■キム・スチョル(仮名/耀徳収容所出身脱北者)「国軍捕虜(の息子としての)差別を受けながら、やっと軍隊を除隊したのに、また炭鉱だつて。それで、『炭鉱には行きませんよ。私は。そんなに難しく、大変な所だったら、將軍様の息子さんを先に行かせたら私も行く』と言ったら、反動だと言われたんです。その罪で、耀徳に入れられたんです。罪もないんですよ。それが何の罪ですか。」

やっぱり惨めだった収容所生活。

「蛇も鼠もないんです。肉は全部獲って食ってしまいます。肉は獲って、時間のある時に、火を使って沸かして食べたり、それが無理だったら、生肉を、血も出てるのを、噛んで食べたり……」

脱出を試みた人の公開処刑も目撃したと言います。

「雪の上に『自由を探しに行きます』と書いて、消えたんですが、捕まてその場で銃殺されました。皆が見ている所で、銃殺されたんです。」

韓国に帰順した人の家族たちが収監された事実も証言しました。

「黄長燁先生の七親等の親戚までの全員が、地

んです。その人たちは黄長燁という人を見たこともないと……」

1983年に帰順したリ・ウンピョン大尉家族も同様でした。

「(リ・ウンピョン大尉の)親と息子は終身刑、その次の妹たちは革命化区域。保衛指導員から聞いたんですが、親と息子は銃殺されたようです。その後に。」

ドイツ留学生時代、北朝鮮に入国した後、脱北したオギルナム氏の夫人、いわゆる「統営の娘」で知られている申淑子(シン・スクチャ)さんと、娘である恵媛(ヘウオン)、圭媛(ギュウォン)さんも収容所で会ったことがあると言います。

「(私に) 恵媛の家に薪を少しずつ渡しおけと言われたんです。ただ、1ヶ月、2ヶ月に一回……」

北朝鮮の有名な映画監督であるリ・ジンウさんは、6・25戦争(朝鮮戦争)関連作品を制作するために極秘文件を捜している途中、6・25戦争が北侵ではなく南侵戦争であることを知り、周りの人に言ったことで収容所に入れられました。

「6・25は米軍と(南韓)傀儡軍が北侵したと言ったのに、金日成がやったことをこの人が知ってしまったんですよ。北朝鮮は自分たちが戦争挑発なんかしてないと言ってる国ですから、それをほっとけるわけないんじゃないですか。それで収容所の終身区域に入れられたんですよ。」

1977年、日本で拉北されためぐみさんの生存に関する証言も出ました。

「大韓航空(KAL)機爆破事件」の実行犯である金賢姫が、めぐみさんは工作員仲間の日本語先生であったとの拉北事実を証言した以後、北朝鮮側は自殺したと主張してきた。

しかし、北朝鮮がその証拠として日本の家族に送った遺骨は、にせ物であることが判明されたうえ、最近では拉北者である金泳南と離婚した後、「ハン・ソンエ」という名前前で平壤で娘と一緒に暮らしていることが分かっています\*。

「(めぐみさんが)生きてることだけを知っています。私は。」

それに加えて、日本政府の生還圧力がめぐみさんの生命に脅威になると警告します。

「日本であまりにも強力に要求したりすると、実際に殺すこともありうるんですよ。殺して遺骨を送ってくる可能性もあるんですよ。もう、今は(めぐみさんが北朝鮮の高位層に対する)秘密をたくさん知ってるので、この女は返さないんですよ、北朝鮮が。それは、それに関連した部署の人が私に言ったことなんです。返しませんよ。」

沢山の文化芸術人たちも収容所で惨めな死をむかえました。

北朝鮮の高位層で育ち、平壤総合芸大の舞踊学部を卒業して、舞踊家崔承喜(チェ・スンヒ)を師事した金英順(キム・ヨンスン)さん。

金正日の最初の夫人である成恵琳と友達だという理由で収容所に収監されました。

■金英順(耀徳収容所出身脱北者)「(成恵琳のため)私が金正日の私生活を全部知っているということで……それが罪になるとは思わなかったです。夢にも思いませんでした。」

親が収容所で飢え死にされたという金さんは、当時多く芸術人に会ったと証言します。

北朝鮮の初の芸術映画である「我が故郷」を演出するなど監督としても有名な俳優姜弘植(カン・ホンシク)さん。

韓国の俳優、ツェミンズシの外祖父としても知られています。

「背がとても高く素敵な方です。姜弘植先生。ところで、顔がそんなふうな鉄色になることは、想像もできなかったです。私に、「(姜さん自身が)映画に出演したい」と仰ってました。余命をあまりにも惨めに収容所で亡くなりになったことを思い出すと、胸が痛みます。」

また北朝鮮のサッカー英雄である朴勝人(パク・スンジン)監督と選手たちは1966年のイングランドワールドカップでポルトガルに敗れたという理由で、1930年代、現代舞踊家として全世界的な名声を博した崔承喜先生は舞踊が退廃的であるとの理由で、2002年釜山アジアゲームと2003年大邱ユニバーシアード大会の際、韓国を訪問した美女応援団は韓国で見て聞いたことを口外したという理由で、それぞれ政治犯収容所に収監されたと脱北者たちは証言しています。

北朝鮮の労働党創党66周年だった先月10日。平壤市内のあちらこちらには創党66周年を記念する語句が掲げられました。

それに加えて、この日は黄長燁(ファン・ジャンヨブ)元北朝鮮労働党秘書の一周忌。韓国では故黄長燁先生の追悼行事が開かれました。

臨津閣で開かれた対北ピラ撒き行事。

「北朝鮮同胞を解放して北朝鮮人民を救援しよう」

大きな風船をピラと共に北朝鮮に飛ばします。韓国での黄長燁先生の業績と北朝鮮の民主化に対する意志を北朝鮮住民たちに知らせる内容のピラです。

この行事を主導してきた脱北者朴相学(パク・サンハク)さんは、北朝鮮の殺害の脅威に苦しんでいます。

最近では朴さんを毒針で殺害しようとしていた同じ脱北者出身の要員が公安当局に摘発されました。このように北朝鮮のテロ対象になった人々は、北朝鮮体制を批判する高位層の脱北者たち。

■朴相学(自由北韓運動連合代表)「我ら脱北者たちが、この大韓民国社会の国民としての不信を持たせているのです。お互いに信じることができず、殺し合うことによって、自分たちの3代世襲体制に危害となる勢力に恐怖感を与えるために。」



~~~~~

脱北者を助けたり救出する民間活動家も中国現地でテロなどに犠牲される場合が続きました。先月末、中国東北地域の一都市。荷物を持った脱北女性2人が、第3国を通じて韓国に渡るために民間活動家の力を借りて車に乗って慌てて移動する姿が取材チームに捉えられました。このような脱出過程を手伝うことを中国公安当局に摘発される場合、韓国人など外国人は現地法違反で起訴され、中国人の場合は処刑されたりします。

摘発された外国人が収容される中国延吉の拘留所を撮影しました。内部に見える拘禁施設と監視塔。現在、こちらには他の脱北者たちと一緒に逮捕された韓国国籍の脱北者が収容されています。

中国瀋陽市の韓国総領事館。こちらにも二重の鉄條網を張って休みなく巡視し回る警備隊を確認することができます。脱北難民たちが中国内の外国公館に駆け込む場合が続いているので、これを防ぐためです。とりわけ、脱北者たちはお金がなくて中国から脱送することができます、公安につかまって北朝鮮に送還される状況なので、これを見守るしかできない脱北者たちは極度の不安と哀れな気持ちに苦しめられています。

■脱北者 「今、北から韓国に入ってくるのに普通6百万ウォンほどですが、その程度の費用は韓国人が中国とどこかに旅行するときを使う金額です。そのお金なら一人の命を助けられるお金です。」

~~~~~

南と北を行き来しながら、離散家族の痛みと懐かしさを伝達する一人の青年の話を描いた映画。映画のように実際に南から北に手紙を配達する人々もいます。取材チームは、北朝鮮と中国の国境地帯で手紙配達者に会いました。韓国にいる一人のお母さんが北朝鮮の娘たちに

送る手紙。

「私の娘たちへ。豆満江が溶けた頃には危ないから川がかちかちに凍りついた1月に、必ず渡って来なさい。(あなたの)赤ちゃんは生きてても死んでも必ず守らなければならないということを忘れてはならない。」

~~~~~

北にいる家族が引越しをしても、うわさをたよりに捜し、南側の手紙は必ず届けていると配達者は言いました。

「国境の側ではみんな携帯電話を使っていますから、お互いに連絡しているんですよ。」

■KBS NEWS (11月11日、ニュース広場) 「先月、中国で脱北者35名が逮捕されたのに相次ぎ、最近、脱北者23名がまた逮捕され、北送直前に置かれていることが分かりました。」

~~~~~

ソウルの中国大使館の前で開かれた脱北者強制送還反対デモ。

「中国政府は強制送還禁止の国際難民協約を守り、今度逮捕された37名の強制北送方針を直ちに撤回しろ。」

~~~~~

国連とアメリカ、日本、ヨーロッパまで、国際社会でも脱北難民と北朝鮮住民たちの人権に対する関心が高くなっています。

■スザンヌ・ショルテ(アメリカディフェンスフォーラム財団) 「いつか金正日体制は終わるでしょう。避けることのできない事です。北朝鮮の住民たちは私たちに聞くでしょう。私たちが苦しんでいたとき、あなたがたは何をしていたか。」

~~~~~

韓国の国家人権委員会も、先月、北朝鮮人権改善のための政策勧告案を政府に提示することを決めました。

■金泰勲(キム・テフン、国家人権委員会) 「憲法第3条によると、北朝鮮住民も大韓民国の国民です。したがって、人権の中核的な専門機構である国家人権委員会にとって北朝鮮の人権は誠に本質的な固有の業務であるとの立場です。」

~~~~~

しかし、韓国社会で脱北難民に対する関心と支援は、まだ十分でないとの指摘があります。

■金龍化(キム・ヨンファ、脱北難民人権連合代表) 「心を開いて寄付されたお金が、良いところに使われる場合も多いですが、一部では着せがましく振舞ったりして、本当に苦しんでいる脱北者

たちに届かない場合も…」

~~~~~

このような脱北者を含んだ北朝鮮の人権問題の深刻性は認めるものの、拉北者と国軍捕虜、離散家族などの問題が優先的に解決されなければならない、そのために北朝鮮との敵対的関係では問題解決が難しいという主張もあります。

■高景彬(コ・ギョンビン、ソウルサイバー大学教授) 「拉北者たちの生死確認や金銅山での再会など離散家族たちの問題を解決するためには、やむを得ず北朝鮮政府の協力を必要とします。そうしないと、進展できないのが我々の現実です。」

~~~~~

近現代史において唯一の3代世襲の独裁社会、北朝鮮。韓国社会での、対北関係をめぐる政治的、理念的論争は依然として続いています。しかし、同じ民族である北朝鮮住民たちの人権に対しては関心も、論議も十分ではなかったのが事実です。

そして再び訪れてきた国境の冬、今日も生の限界を耐えることができなかつた同胞たちが命をかけて川を渡り、同時に彼らの惨めな生活も一緒に始まっています。

(韓和訳:李 元恩)

注*「ハン・ソンエ」

北朝鮮当局が05年に作成したとされる平壤の住民情報資料で、拉致被害者の横田めぐみさんと生年月日や家族の名前が一致する「ハン・ソンエ」という名前の女性がいると確認。同一人物と確定するには至っていない。(四国新聞/2011/11/18)

韓国の朴・ソンヨン国会議員は、めぐみさんの夫と娘が居住していた平壤住所と一緒に記載された、めぐみさんと生年月日の同じである「ハン・ソンエ」という人が、めぐみさんと同一人物である可能性が高いと証言。「めぐみさんのこの住所は、誰でも住むことのできる住所ではなく、(北朝鮮が)特別管理する人々の住む所。」「北朝鮮が国連に提出した核施設関連責任者の住所とも同じである点からして、「ハン・ソンエ」という名前のめぐみさんは北朝鮮の特別管理対象である」と言及。(YTNニュース/2011/12/127)



13年めにやっと活動の機会

渡邊 孝雄 (新会員)

私が北朝鮮問題に関心をもったキッカケは、当時私は高校生でしたが、1998年の飢饉で約300万人が亡くなったというTVの報道を見たことです! この時から北朝鮮とはどういう国なのか興味をもち、自分で調べてみました。

シン・ドンヒョクさんの本や北朝鮮関連の本を何冊も読みましたが、脱北者や政治犯収容所のことを知って悲しくなり又北朝鮮の人達を助けたいと思うようになりました。

そこから何気なくいろいろな人にこのことについて聞いてみると、知らない人や興味もない人が大半で、日本人の関心が低いことも分かりました。

私も本を読んだとき、最初はこんな残酷なことが本当に行われているのか疑問に思うこともありましたが、脱北者の発言がみな収容所のことを、『この世の地獄』と言っており、また命懸けで亡命しており、本当のことであると思うようになりました。

収容所のことを調べれば調べる程、辛く眠れないこともありましたが、TVで収容所の生活が報道されるたび、胸がいたく、私に何か出来ないかといつも考えていました。しかし、何もしないまま、13年が経ちました。

ある日、ネットでNO FENCEの存在を知り、このまま黙殺してはいけないと思い、NO FENCEに入会し、活動に参加しようと決意、2011年10月に入会しました。

今後、会の会合に積極的に参加し、目的達成の為に活動していきたいと思っております。未熟ですがよろしくお願ひします。



いのち

いとおしきもの

共同代表 小沢木理

昨年(2011)12月1日都内で行われた「拉致被害者はなぜ生きていると言えるのか」という国際セミナーの集会で北朝鮮の統一戦線部の元幹部、張哲賢氏が貴重な証言を行った。

02年9月の小泉首相(当時)訪朝の日朝首脳会談で、会談がゆきづまり、日本の一行が休憩で別室に案内されたとき、安倍晋三官房長官(当時)が、(盗聴されていることを意識して)「拉致を認めず、謝罪もしないのなら、平壤宣言に署名する必要もない。決裂でいい。断固帰国しましょう」と話したその盗聴資料を金正日が目を通した。

その後再開された会議の冒頭で、金正日は、突発的に独断で拉致を認め、謝罪も可能だにおわせた。それは単に「あてにしていた日本からの金をこのまま何も取らずに帰国させたのでは元も子もない」と、とっさに判断したからだった。つまりそういう緊張した状況下で、野心が先行し想定外の言動に走ったのである。全権を握るから出来た言動ではあるが、まともな交渉などしない金正日でも一瞬の“隙”ができ、まさかの“拉致を認める発言”を引き出してしまったのだ。このとき始めて明らかにされたこの証言は私の持論を勇気づけた。それを受けて、活動にあたっての私の考え方を参考迄に以下に箇条書きにしてみた。

< NO FENCEの活動にあたって >

■“手”=技

勝負ごとでは、その一手や技のいかんが決め手となり勝敗を分ける。互いの手持ち駒の働きを熟知し、自分の駒を適材適所効果的に活かす。一本勝負的猪突猛進型は短命に終わる。

用はそういう手は何度やっても振り出しに戻ることに一向に進展しない。「さらなる制裁を強化」「鉛とムチ」の二語のこだまが聞こえて来ない。かといって、どちらかが大きな黒いタマをぶん投げ合っただけで一気に思いを遂げようとするのは、瞬時には勝負が停止しても、逆にその勝負は泥沼化し悲惨なエンドレス状態を招く。やはり採るべき手は、相手が即警戒体制に入らないように持てる駒を同時進行でじわじわと相手のふところに入っていき詰めていくことだ。いくつもの逃げ道を塞ぎ込めた段階では、「王手!」をかけなくてももう相手方はお手上げ、何も出来ない状態にまでなっている。「王手!」と手を打つ駒を打つ必要も無くなっていてゲームセットとなる。

◆一ご報告ならびにご挨拶◆

この段になってご報告するのは心苦しいのですが、わたしこと小沢は健康上の理由からこの3月一杯で今迄の活動を停止し、治療に専念することになりました。強制収容所廃絶の思いは募りこそすれ薄れることはありませんし、やらなければならぬことがハッキリ頭の中にあります。忸怩たる思いですが、自らの赤信号に停止せざるを得なくなりました。
NO FENCE(08年の年初から準備、同3月発)の立ち上げから、会員のみなさま、世話人のみなさま、砂川昌順、小川晴久、宋允復の各氏に今迄の感謝をお伝えすると共に今後の活動を話し辞任の挨拶とさせて頂きます。NO FENCE活動が不要になるその時を強く願っています。

一種の交渉ごとでもある。相手が武力や核を使う可能性があったとしても、ものごとみな交渉次第である。良識的ルールが全く通用しない相手であっても、やはり交渉術が功を奏する。複雑すぎる問題含みの相手であっても、ものごとを単純化して交渉術を磨くことはまさに『急がば回れ』の早道、賢い成功法ではないか。

■「丸投げ請願から実現策提案型へ」

「なんとかしてください!」「どうかしてください!」「どうしてやらないのですか!」と政府やお上に訴える式が従来の市民活動だった。それはバケツを叩くようなもので自らの思考能力の放棄を意味する。具体的成功法や現実的に可能なものかまでは考えてこなかった。「考えるのは、成功させるのは、あなたたち政治家の仕事」としていた。政府は、する気がないのではなくできることであらばとっくにしていた。政治家といえどそれは誰がなるうと同じで、できるのは国民の声に背を押されて「制裁強化」のパフォーマンスだけだ。これからの市民活動は、問題解決への道筋(ロードマップ)案や最終目標迄に必要なフレームワークを示すことができ、その内容で政治家と交渉ができることが必要だ。それは、日本政府に対してだけではない。手持ちの『駒』はそれぞれ託された目標に向かって指せるのです。

■イニシアティブ

北朝鮮の現政権下で最大の不幸は何かと言えば、それは国民に主権がないことだ。“人権”とはなにか、それはやはり「自己決定権」から始まる。日本にいて平和ぼけている私たちにおいてもそれは全く同じだ。北朝鮮の強制収容所は、まさに無条件に主権者の自己決定権が剥奪され集められた場所。つまりは、「収容所をなくせ!」という主張は、裏返してみれば根源的問題の「主権を戻せ!」の意味のはず。そういう意識、誰もが等しく持っている侵すべからずの“イニシアティブ”の正しい理解なくしてこの活動はやはり脆いものになってしまうだろう。

■ワンイシュー

NO FENCEは“強制収容所廃絶”という明確な目標を掲げていてその存在意味がある。そしてこの問題の解決が北朝鮮国内はもとより北朝鮮に拉致などで幽閉されている日本をはじめその他の国々の人々の解放に繋げる糸口であり、解放への最大の鍵だと考えている。一方、同時に社会的に人権活動をする市民団体にはそれ相当の責任も課せられる。「人権」というテーマひとつだけでもおびただしい人権回復要求の市民団体がある。その多くは正論を主張している。しかしここで懸念することは、自分たちが関わる「主張」だけに囚われているあまり、ほかの社会的な人格権を軽視してしまいがちになることだ。意図せず他人権侵害を与えてしまうこともあり得る。それではその市民団体の主張自体が支持されなくなったり、社会的信頼を失っていく。よって、それがワンイシューの落とし穴でもあり注意が必要だ。自分たちの主張の裏付けとして一方で社会的責任を自覚した活動組織でなければ、普遍的な人権問題を語って説得力がなくなる。常々そう思っている。